



点眼液1本は何日分？

現代の眼科領域には様々な点眼薬の種類があります。抗菌薬、抗アレルギー薬、抗炎症薬、緑内障点眼薬などなど。一日に使用する回数なども点眼によって異なります。

各メーカーで点眼瓶の形状や硬さなどは変わりますが、1滴はだいたい**40-50 μ L**になります。結膜嚢（目の表面）のスペースが**20-30 μ L**とされており、1滴がきちんと入れば十分ということになります。

1本の点眼瓶は4回点眼するものは通常5mLになります。大体**100回から120回程度**点眼できる計算になります。

実際には、点眼を失敗することもありますし、一回に何滴も垂らすこともあると思います。そうなると減り方も早くなります。ですので、少なくとも**月に1-2本は必要**になります。

症状のある時のみ使用する点眼や毎日必ずつけるべき点眼もあります。一つの目安として意識してみてください。

弱視の早期発見

弱視は、大人になって眼鏡をかけても視力が低い状態を言います。**早期発見**して適切な時期に適切な治療を受けられれば、弱視になることを防ぐことができます。

眼科医としての使命の一つに子供たちの弱視を早期に発見し、可能な治療を施すことにあります。

そのために3歳時検診、保育園や幼稚園での健康診断、就学時検診といった機会を通してチェックしていきます。

何か検診で、異常を指摘された場合には、眼科専門医の診察を受けることを推奨します。

また、普段から何か気になることがありましたら、なんでもご相談ください。



LINEお友だち登録

10月31日現在で**452名**の方に登録をいただいています。

